

住民参加における住民・行政・専門家のパートナーシップに関する一分析

東洋建設(株)	正会員○	森下 喜博
徳島大学工学部	正会員	山中 英生
(株)建設材料試験所	正会員	澤田 俊明
徳島市開発部		大村 順一

1. はじめに

昭和40年代より叫ばれてきた住民参加によるまちづくりが、最近各自治体でようやく実践されるようになった。住民参加手法には様々なものがあるが、ワークショップ(WS)手法が用いられることも多い。ここで、WS手法とは、例えばあるまちづくりなどの特定の目的のもと、住民や利用者が互いに意見を出し合い、行動・作業することにより最終的に意見を集約し提案するなど、合意形成をするための手段といえる。WS手法により適切な効果を得るためには、各構成員間のパートナーシップが有効に機能しなければならない。なお、パートナーシップとはWSに参加しているグループ、すなわち住民・行政・専門家の役割とその働きの上に成り立つ協力関係のことを指す。しかし、WS手法は、まだ明確に確立された手法ではなく、各自治体が実践する場合でも、試行錯誤の状態であるというのが現状である。

そこで本研究は、WS手法における住民・行政・専門家のパートナーシップが有効に機能するための各グループの役割と問題点に焦点をあて、WSにおける住民・行政・専門家の役割について徳島市末広公園WSを事例として調査・考察した。

2. 徳島市末広公園WSの事例

WS手法におけるパートナーシップについて、徳島市の街区公園の改修にあたって行った末広公園WSを事例とし、調査・考察した。

末広公園は、徳島市東部臨海地域の市営団地等に囲まれた静かな住宅地に位置する面積約1,500㎡の街区公園で、昭和46年の設置から約25年経過し老朽化が進み今回改修されることとなった。そこで徳島市では住民参加によるまちづくり施策の一環として、徳島市では初めてWS手法を用い公園計画を行うこととなった。

今回の末広公園WSは、行政と専門家集団により構成された任意団体である徳島WS研究会が運営母体となったもので、行政・専門家主導型のWSといえる。ここでの専門家とは、WS手法に関する専門家ではなくまちづくりに関わっている建築・土木を含む各分野の専門家を意味する。徳島WS研究会のメンバー構成を表1に示す。

表-1 徳島WS研究会の構成

構成人数	24人			
専門分野				
建築	都市計画	行政	その他	
17%	17%	37%	29%	
(大学関係者17%)				
年齢層				
20代	30代	40代	50代	
4%	25%	63%	8%	
WS経験者				
多い	1回程度	なし		
8%	8%	84%		

3. 調査方法

本研究では、末広公園WSにおける専門家の役割と問題点を明らかにするために、次の調査をおこなった。

- 専門家に対して ・第1, 2回末広公園WS終了後のアンケート(回答者: 第1回・22人、第2回・20人)
- ・徳島WS研究会の3名にヒアリング
- 行政に対して ・末広公園WS担当者1名にヒアリング

調査内容は、アンケートでは末広公園WS当日の専門家の専門性の発揮の有無、ヒアリングでは、専門家の自己評価と行政からみた専門家集団の役割を明らかにする内容とした。

4. 調査結果

図1の専門家のアンケートの結果から、第1回WS・第2回WSとも50%に満たない専門家しか自己の専門性を発揮できていないことがわかる。表2はWS研究会の専門家主要メンバー3名の専門家のヒアリングの結果であるが、専門家の専門性は発揮できていないこと、WS当日の住民に対する専門家の発言も各人により異なった認識での発言であったことなどが指摘された。行政ヒアリングからは、徳島WS研究会におけるまちづくり専門家の存在は、知識・労力面において大きいという結果であった。

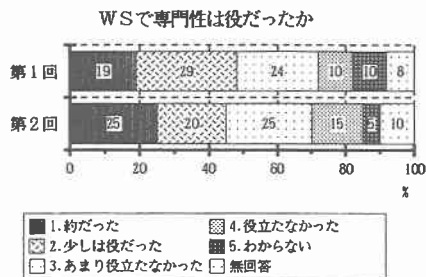


図-1 専門家へのアンケート結果

5. 考察

表3に第3回WSまでの運営スケジュールの概要を示すが、ここまでは、運営者の意識がプログラム作成、イベント計画、作業分担などのWS当日の運営面に片寄ってしまい、WSに参加するまちづくり専門家がどのようにWSに関わるかの議論が欠落したままWSが進展したといえる。そして、結果的にWSに参加した専門家において、『WSにおける運営と専門性の混同』があったものと推察される。

第2回末広公園WSで「起こし絵模型づくりゲーム」では、参加者を4班に分け、各班ごとに専門家がグループリーダーをつとめる起こし絵模型を作った訳であるが、起こし絵模型のデザインに専門家の意見が比較的強く影響した班と、そうでない班の差が見られた。これから専門家の『WSの運営と専門性の混同』が伺える。

表-2 専門家へのヒアリング結果

質問項目	A氏	B氏	C氏
専門家の専門性は発揮できていない研究会での議論必要か?	×	×	専門家としては参加しては行かない。むしろ進行されるほど議論できていない
専門家同士の連携はうまくいっているか?	×	×	連携というより知り合いが増えているという感じ
徳島ワークショップ研究会の役割はうまく果たしているか?	-	・試行錯誤 ・勉強不足	・本来は地域が主体となり研究会が支援するもの
専門家の意欲は感じる		もちろん感じる	一部のみにひっぱられている
WSでの専門家としての発言に、準備段階で必要			専門家としてではなく一参加者、運営者として参加していた

6. 終わりに

本調査により、末広公園WSでは、参加したまちづくりの専門家において『WSの運営と専門性の混同』があったことが明らかになった。WSにかかわる専門家の役割は、WS当日の「リアルタイムの役割」とそうでない「オフの役割」が考えられ、今回の研究成果と継続する末広公園WSを相互フィードバックして、今後WSの研究を継続していきたいと考えている。

表-3 末広公園WSのタイムスケジュールと徳島WS研究会の活動

日時	会名称	参加数 住・専	内容
95.7.4	第1回TWK	ー・18	・末広公園WSに関する議論 ・徳島WS研究会の設立
8.8	第2回TWK	ー・18	・末広公園を知るための作業 ・プレWSのプログラムの検討
8.27	プレ・WS	108・30	・イベント(竹細工づくり、ミニプールづくり、かき氷・そうめん等)
9.14	第3回TWK	ー・15	・公園利用調査報告 ・第1回末広公園WSのプログラムの検討
10.5	打ち合わせ会	ー・20	・第1回末広公園WSの運営についての打ち合わせ、意見交換
10.8	第1回SWS	52・36	・街角突撃インタビュー ・夢の公園づくりゲーム
11.14	第4回TWK	ー・18	・第1回SWSの報告 ・第2回SWSのプログラムの検討
11.26	第2回SWS	42・25	・公園使い方シートの作成 ・起こし絵模型づくり(4案)
96.1.23	第5回TWK	ー・14	・第2回SWSの報告 ・起こし絵模型を2つに集約
2.2	第6回TWS	ー・14	・第3回SWSのプログラムに関する議論 ・起こし絵模型の議論
2.18	第3回SWS	34・17	・公園使い方ロールプレイ

TWK・・・徳島ワークショップ研究会
SWS・・・末広公園ワークショップ